

令和8年度第1回茅ヶ崎市社会教育委員の会議定例会会議録

議題	(1) 令和8年度社会教育課及び青少年課の事業計画について (2) 令和8年度青少年関係団体に対する補助金の諮問について (3) その他
日時	令和8年4月24日(金) 10:00～11:30
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者氏名	(委員) 議長：吉原 弘子 副議長：宮下 孝義 下村 耕一郎、青木 千賀子、深井 孝一、城田 禎行、 山下 理恵、山本 珠美 (欠席委員) 加藤 盛朗、沼上 純子 (事務局) 森井教育推進部長 [社会教育課] 仲手川課長、内海課長補佐、葛西副主査 栗原 (会計年度任用職員) (関係課) [博物館] 須藤担当課長 (館長) [小和田公民館] 浅井担当課長 (館長) [鶴嶺公民館] 荒担当課長 (館長) [松林公民館] 西山担当課長 (館長) [南湖公民館] 星谷担当課長 (館長) [香川公民館] 松下担当課長 (館長) [青少年課] 鈴木課長 [青少年会館] 中原主幹 (館長)
会議資料	・次第 ・茅ヶ崎市社会教育委員名簿 ・資料1：令和8年度社会教育課及び青少年課事業計画 ・令和8年度青少年関係団体への補助金交付について(諮問)
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人

(会議の記録)

○仲手川社会教育課長

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、御出席いただきありがとうございます。

ただいまから、令和8年度第1回社会教育委員の会議の定例会を開催いたします。

本日は、令和8年度初めての会議となりますので、会議開催に先立ち、森井教育推進部長から御挨拶させていただければと思います。

それでは、教育推進部長、お願いいたします。

○森井教育推進部長

本日は大変御多忙の中、貴重なお時間をいただき、令和8年度第1回社会教育委員の会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様におかれましては、日頃より社会教育に関わる様々な分野の活動を通じまして、茅ヶ崎市政に多大なる御尽力・御協力いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、平成29年度から3年間ほど公民館に勤務しておりました。公民館では、地域の皆様を感じながら、公民館まつりをはじめ、様々な事業に従事しておりました。公民館には良い思い出しかないわけですが、その際に吉原議長から様々な御助言をいただいて参りました。それ以前にも、吉原議長が茅ヶ崎市人権擁護委員でいらっしゃる際に、私はその事務局におりましたので、今回一緒に仕事をさせていただくのが3回目ということでございます。これも、社会教育・公民館の基本原則の「集う」「学ぶ」「結ぶ」の一環なのかなと実感しているわけでございます。

昨今の茅ヶ崎市の状況につきましては、人口は徐々に減少しているわけですが、コロナ禍以降の人口の流入、特に子育て世代の人口の流入が続いているといった状況でございます。こうした状況を踏まえますと、やはり人づくり、そして地域づくりに取り組む社会教育の重要性はさらに増しているのではないかと考えているところでございます。

委員の皆様におかれましては、令和6年度より社会教育委員の委嘱をさせていただきまして、会議等を通じて様々な御意見をいただきながら、令和8年3月19日に答申「地域学校協働活動の推進について」を教育長にご提出いただき、社会教育のさらなる推進に向けた御示唆をいただいたところでございます。

本日の会議につきましては、令和8年度の社会教育課及び青少年課の事業計画等について、様々なお立場から御意見を賜り、本市の社会教育のさらなる推進に努めて参りたいというふうに考えております。ぜひ、忌憚のない御意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○仲手川社会教育課長

続きまして、出席職員でございます。第1回定例会については、各社会教育施設等の施設長も出席しておりますので、出席しております職員を紹介いたします。

(職員紹介)

○仲手川社会教育課長

また、本日、沼上委員につきましては欠席の御連絡をいただいております。加藤委員は遅参、山本委員におかれましては、会議の進行時間により退出する可能性がある旨、御報告をいただいておりますので、よろしくお願いたします。

それでは引き続き、会議の議題に入ります。社会教育委員の定数は10名となりますが、本日は過半数の出席をいただいておりますので、茅ヶ崎市社会教育委員会会議規則第4条の規定により、会議は成立していることを御報告させていただきます。

ここからは、吉原議長に進行をお願いいたします。

○吉原議長

改めまして、皆様こんにちは。今日は本当にお忙しい中、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

会議に入る前に、委員の皆様にご報告をさせていただきます。先ほど、森井教育推進部長からもお話がございましたように、3月19日に教育委員会の青柳教育長に、私のほか、加藤委員、沼上委員、山本委員に参加をいただきまして、無事皆さんと一生懸命まとめさせていただきました答申をお渡しすることができましたことをここで報告をさせていただきます。

この答申をまとめるにあたりましては、起草委員ではない委員の方々も、お時間がある時には委員会に御参加くださいまして、細部に渡り御意見を頂戴することができました。

前期の建議書も含めて4年間の積み重ねとして、今回はとてもきちんとした答申をお渡しできたのではないかと自負しております。すぐさま、私たちのお出しした答申が活きるとは思いませんが、色々な形で何かの参考にしていただき、それぞれの地域の中で活用していただければとても嬉しいと思っております。

委員の皆様、それから事務局のお力添えをいただきながら、本当に立派な答申をきちんと出せましたことをここで報告をさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、ただいまから令和8年度第1回社会教育委員の会議定例会を開催いたします。会議録については、事務局にて案を作成していただき、各委員に御確認をいただいた上で決定し公開となります。

それでは、始めに、配布されました資料等につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○事務局

(事務局より配付資料の説明)

○吉原議長

ありがとうございました。資料はお揃いでしょうか。

それでは議題1「令和8年度社会教育課及び青少年課の事業計画について」に入ります。今年度の取組の主たるところ、力を入れて取り組むところ等について、それぞれ簡潔に御説明をお願いいたします。

(資料1に基づき、各課、各施設より事業計画について説明)

○吉原議長

ありがとうございました。各事業計画について御説明いただきました。委員の皆様から何か質問意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

○城田委員

青少年課にお尋ねします。小学校ふれあいプラザ事業に関して、令和8年度は、19校中17校で実施ということで、実際運営するにあたっては、多少補助が出ていると思いますが、地域のボランティアに頼っての実施だというふうに思います。高齢化で持続可能な体制がなかなか取れないという話も聞いております。今後、運営方法に関して、見直しなどを検討しているのかどうか、お聞きしたいです。

○青少年課 鈴木課長

小学校ふれあい事業につきましては、事業開始から20年以上が経っております。地域のボランティアの方々をお願いしている部分は多分にありますが、昨年度休止となってしまったところからは、担い手が不足しているということだけではなくて、子どもたちの多様な居場所が整えられてきたからというような御意見もお聞きしました。ただ、小学校ふれあいプラザという子どもたちの居場所は大切なところであると思いますので、各小学校のふれあいプラザの委員の皆さまと意見交換をする場を年複数回設けております。そういったところで意見を重ねながら、行政として将来に向けてどうしたほうがよいかを皆と考えていくというような話を昨年度もさせていただきました。それを今年度も継続して、よりよい小学校ふれあいプラザというのを考えていきたいと思っております。

○城田委員

ぜひ持続可能な方法を検討していただきたいです。子どもの居場所が多様化しているという中で、児童クラブに関しては教室が足りない、増設も検討しているという話も聞いております。子どもの居場所というのは色々なところにあるのですが、全体を見渡しながら、バランスのとれた子どもの居場所というのを検討していただきたいと思います。

もう一点、青少年課に質問です。事業計画にある「子どもの安全を守る都市の推進」という事業についてです。SNSのパトロールなどを行っているという話を、以前お聞きしました。現状、どのような形で行っているのかお聞かせください。

○青少年課 鈴木課長

こちらに関しましては、何点か事業を行っております、主なところでは、「ネットパトロール事業」、「新小学1年生への防犯ブザー配布」、「『子ども110番の家』の協力依頼」、「横断幕を掲示しての周知」などの取組を行っております。

ネットパトロールの現状といたしましては、会計年度任用職員を1名雇用し、週3日、インターネットやSNSを中心に、小中学生の児童・生徒が、例えば、いじめや誹謗中傷、学校・クラス・個人が特定される書き込みなどがなくないかなどをチェックしています。そういった情報が見つかった場合には、学校教育指導課等を通じて、各学校にフィードバックを行っています。

課題としましては、今、鍵つきアカウントなど、非公開アカウントを用いて、特定のメンバー間で情報発信されることも増え、情報収集が難しくなっているという実態があります。今後、そういった現状を踏まえながら、こういった方法がよいか考える必要があると思っております。

○吉原議長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○山本委員

公民館の皆様にお尋ねします。昨年度の第1回社会教育委員の会議の定例会において、公民館として、夏休みの子どもの居場所づくりについて、力を入れていきたいということをおっしゃっていた記憶があります。毎年、今年度何をするかという計画についてはこの会議でお話していただくのですが、昨年度の成果がどうだったかわからないまま今年度の事業計画をお聞きすることになってしまっています。夏休みの子どもの居場所づくりだけに限らず、昨年度こういう事業を行い、今年度も続けていきたいといった部分をいくつか御説明いただいたとは思いますが。

○松林公民館 西山館長

松林公民館では、昨年度御説明させていただいた夏休みの居場所づくりとして、8月に夏休み子どもデーと題して、朝から夕方にかけて、館内各所において様々な講座を開催いたしました。スポーツチャンバラ、パソコンでメモ帳づくり、ヨーヨー釣りなど、体育振興会やパソコンボランティア、青少年育成推進協議会、民生委員、保護者の方々などのお力をお借りいたしました。

1年を通しては先ほども御説明したような様々な事業を実施させていただいたところがございます。

○小和田公民館 浅井館長

小和田公民館の主催事業計画の3ページ目を御覧ください。「地域課題解決事業」の13番目にある「こわだこどもキッチン」という事業がまさにそれに当たると思っています。昨年

度、新規事業として立ち上げまして、先ほど児童クラブが足りないというお話が出ましたが、松浪地区も同様でして、それを地域と公民館が連携して解決できないかと地域と考えて開催したのがこの事業となります。夏休みの火曜日から金曜日の中で賛同いただいた団体と日程調整し、計14日間開催しました。調理台が4台しかございませんので、1日の参加人数は16から20人程度で、地域の方と子どもと一緒に食事を作って、一緒に昼ご飯を食べるという事業を行いました。大変御好評でして、毎日抽選になるほどの御参加をいただきました。今年度も引き続き開催することで調整を進めております。

○事務局

今、御説明にあった「こわだこどもキッチン」の実施のきっかけとなったのが、松浪小学校のコミュニティ・スクールでの熟議の中で出た課題でして、その課題について小和田公民館が中心となって事業化したということでございます。実際、私も見学に行ったのですが、食事を作るだけでなく、後片付けや掃除を子どもと一緒に行うということにも取り組んでおられました。以上、補足となります。

○山本委員

今のお話で、私もコミュニティ・スクールが発端となり「こわだこどもキッチン」を行うこととなったということ思い出しました。ありがとうございます。

○吉原議長

他に何か御質問等ございませんでしょうか。委員の皆さんよろしいですか。

(特に声なし)

○吉原議長

では、私から、感想等を述べさせていただきます。

社会教育施設におかれましては、本当に毎年、新規事業や継続事業など数多くの企画を実行してくださっております。例えば、博物館などの施設は、本来は静かに見学する場所ではありますが、親子参加型事業として「赤ちゃんと一緒に博物館タイム」という事業が企画・開催されています。この発想はとてもすばらしいと思いました。きっと、保護者同士、そこで色々な話もできて、ほっとする時間を過ごすことができたのではないかと思います。今後も継続されるということで、楽しみにしております。

また、各公民館・青少年会館では、障がい者が自分らしく生きるために社会教育施設ができることは何か、そして誰もが参加できる事業場所となるべく、熟考を重ねてくださっております。その中の1つですが、鶴嶺公民館と茅ヶ崎支援学校との連携事業については、昨年度行われました関東甲信越社会教育研究大会分科会において、下村委員から事例発表をさせていただくことができました。参加者はとても共感を持たれたように思います。今まで私たちの社会教育の中では、障がい者というところにあまり視点がありませんでし

た。今回、茅ヶ崎支援学校の下村先生が社会教育委員になられたことで、こういった新しい発想が生まれて、また茅ヶ崎支援学校と鶴嶺公民館が距離的にも近いということもあり、連携事業を行うことができました。さらに分科会でその発表ができるに至ったことは、とても素晴らしいことだと思っております。本当にありがとうございました。

今回、茅ヶ崎支援学校との連携事業の報告をお聞きし、私たち社会教育委員も会議をするだけに留まらず、各公民館や施設の事業に直接出向いて、自分の身をもって体験をするということがとても大事だと感じました。今後できれば、どこか参加可能な事業がございましたら、地域の大人として参加をさせていただければありがたいと思っております。

以上が、皆さまがお考えの事業計画についての私の感想になります。

既にとっても素晴らしい企画を練っていただいておりますので、さらに、どうしたら多くの人たちを集っていただけるのか、もちろん参加人数だけが全てではございませんが、ぜひそれを皆さんで考えていただきたいです。事業は継続も見直しも、どちらも大事ですので、今後もそれも踏まえて事業計画をお考えいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

委員の皆さんよろしいでしょうか。

(特に声なし)

○吉原議長

それでは、皆様ありがとうございました。事業計画に基づきまして、充実した事業を実施していただくことをお願いいたします。ここで各施設長の皆様は退席となります。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(各施設長退室)

○吉原議長

それでは次に議題2「令和8年度青少年関係団体に対する補助金の諮問について」です。事務局より御説明をお願いいたします。

○事務局

それでは説明させていただきます。資料を御覧ください。この補助金交付については、社会教育法の第13条におきまして、市が社会教育関係団体、青少年関係団体に補助金を交付しようとする場合には、この社会教育委員の会議に意見を聴いて行うということとされておりますので、1枚目の資料のとおり諮問をするものでございます。

続いて2枚目になります。補助金の内訳ですが、青少年課が所管する子ども会連絡協議会、単位子ども会に対して、事業に要する経費の計213,570円を補助するというものでございます。補助金交付団体の活動概要等につきましては、青少年課長より説明をさせていただきます。

○青少年課 鈴木課長

青少年課より概要を説明させていただきます。3枚目の参考資料「補助金交付団体の活動状況等について」を御覧ください。

始めに、茅ヶ崎市子ども会連絡協議会補助金ですが、子ども会連絡協議会が実施する事業により、単位子ども会相互の連絡調整を図り、全ての単位子ども会の充実発展を図るため行うものとなります。補助金額は、補助対象事業に要する費用の額の3分の1を乗じて得た額とします。ただし、予算の額が上限となり、令和8年度は23,000円となっております。補助金の実績は令和6年度が23,000円、7年度見込みが14,636円となっております。

次に、単位子ども会補助金でございます。単位子ども会が進める事業により、青少年に遊びを通して年齢の異なるものとの人間関係を結ぶ力を身につけさせ、社会的自立を図る基礎を学ばせるために交付するものでございます。補助対象事業に要する費用に3分の1を乗じて得た額以内で、1単位子ども会につき5月1日現在の単位子ども会の加入者数に300円を乗じて得た額を限度とするもので、令和6年度の予算額は190,570円でございます。補助金の実績は、令和6年度は162,185円、7年度の見込みが234,850円となっております。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○吉原議長

御説明ありがとうございました。それでは、一括して審議させていただきます。御意見等はございますか。

○吉原議長

参考資料の「加盟子ども会数」の記載に「令和8年度は7単子」とありますが、現在、子ども会は7団体しかないのですか。

○青少年課 鈴木課長

市で把握している単位子ども会につきましては、資料下段に書かせていただいております。令和6年度が18団体、令和7年度も18団体と把握しています。そのうち、子ども会連絡協議会に加盟している単位子ども会の数が7団体となります。

○吉原議長

補助金に関しては、加盟している団体に交付されるわけですね。加盟していなければ補助金はないということですね。

○青少年課 鈴木課長

単位子ども会の補助金のことだと思いますが、こちらは令和4年度に見直しを図りまして、それまでは議長がおっしゃるように連絡協議会に加入している単位子ども会にのみ交付していたものを、子ども会の発展というところで、令和4年度からは加入していなくて

も、補助するという制度に変わっております。

○吉原議長

ありがとうございます。皆様、いかがでしょうか。子ども会活動が少なくなっている感は否めないのですが、やはり地域で子どもたちの活動を盛り上げようと言いつつも、今はとても多くのスポーツ団体もありますし、子ども会活動を行っても、高学年の子どもたちは、低学年の子どもたちほど参加できないような状況かと思えます。何かよい方法を見つきたいのですが、なかなか難しいと思えます。補助金ありきではないですが、やはり子ども会活動というのは異年齢同士の間人関係を体験できるととても大事な場ですので、ぜひ何らかのかたちで継続していただければありがたいと思っております。

○青少年課 鈴木課長

単位子ども会の補助金の額につきましては、利用団体や補助金の額は、もちろん波はありますが、右肩上がりが増えている傾向がございますので、引き続き支援をして参りたいと思っております。

○吉原議長

はい。ありがとうございました。それでは、引き続きよろしく願いいたします。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(特に声なし)

○吉原議長

それでは、審議させていただきます。御説明いただきましたように、令和8年度社会教育関係団体・青少年関係団体に対する補助金については、子ども会連絡委員会補助金が、23,000円、単位子ども会補助金が190,570円、合計213,570円という内訳です。皆様、御異議ございませんか。

○委員一同

(異議なし)

○吉原議長

それでは、令和8年度社会教育関係団体・青少年関係団体に対する補助金については、令和8年度補助金内訳のとおり適正な補助金交付であるとの答申といたしたいと思えます。よろしく願いいたします。それでは、鈴木青少年課長は、ここで退席になります。ありがとうございました。

(鈴木青少年課長退室)

○吉原議長

それでは、議題3「その他」でございます。事務局よろしくお願いいたします。

○事務局

はい、事務局からは2点ございます。1点目は今年度の会議の開催予定です。議題1で御説明させていただきましたとおり、委員の改選後、10月28日に臨時会を、また来年の2月5日に、第2回定例会を開催したいと考えております。

今後委員の改選がございますので、各関係団体へ推薦の依頼などをお願いさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

続けて2点目です。毎年、6月ごろに、神奈川県社会教育委員連絡協議会の総会が行われる予定になっております。こちらは原則全員参加となっております。欠席の場合には委員から委任状をもらうということになっております。例年、出席については、吉原議長と事務局とで参加をさせていただき、その他の委員の方々からは委任状をいただくというかたちをとっております。今年度の総会についても、前年同様、皆様からは委任状をいただくというかたちをとらせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(一同了承)

○事務局

ありがとうございます。

今、御承認いただいたということで、委任状を県の事務局に送らせていただければと思います。事務局からは以上です。

○吉原議長

ありがとうございました。

先ほど、事務局からの今年度の事業計画の説明にありましたように、この7月で私たち委員が改選となります。このメンバーでの会議は今日が最後になりますので、一言ずつお話いただければと思います。

では、最初に、この後退席予定でいらっしゃる、山本委員からお願いいたします。

○山本委員

2年間本当にお世話になりました。

冒頭、吉原議長から、教育委員会へ答申を提出したことについての御報告がありましたが、私もその場に同席していた者として、少し補足をさせていただきたいと思っております。

私事になりますが、かつて他市で社会教育委員の会長を務めていたことがありました。その際、社会教育委員が教育委員会に出席することに関して、社会教育法にその規定がされているにもかかわらず、前例がないということで、なかなか認められず、大変苦勞いたしました。最終的に2年かけて何とか実現したというような経緯がありました。それを踏

まえますと、今回の教育委員会への出席については、おそらく我々委員の見えないところで、事務局が御尽力くださったのではないかと考えております。

実際に、教育委員会に出席して答申を提出した際、教育委員の方々は答申をよく読み込み、とてもよく理解をしてくださっている印象でした。特に教育長は、とても高く評価してくださっていました。それがその場での社交辞令的ではなく、とても好意的に受けとめてくださった印象だったということをお知らせさせていただきます。

ただ、やはり答申を出して満足してはいけなくて、今回、なぜ教育委員会に出席してまで答申を提出したのかというと、社会教育委員が答申を提出することが目的やゴールではないからです。茅ヶ崎市の地域と学校が連携して子どもたちへの教育をより良くしていくために、コーディネーターというものが是非とも必要なのだということを広め、コーディネーターがまず配置されて、なおかつ、そのコーディネーターが活躍して、学校と地域とのより良い関係が作られるということが本来のゴールです。ただし、社会教育委員としてできるのは、答申を教育委員会に提出するというところまでですので、あとは事務局の皆様方に託して、実現に向けて、是非ともよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○吉原議長

ありがとうございます。今、山本委員がおっしゃったように、教育委員の皆様から個々に感想や質問をいただくことができました。それに対して、私たち社会教育委員もしっかりと発言、対応することができたのは、あれだけの時間をかけて作り上げた答申でしたし、そこでのたくさんの学びがあったからこそだと私は思っています。本当に、委員の皆様、事務局のお力添えがあってあの答申ができたと思っています。山本委員がおっしゃったように、答申を出して終わりではないのは確かにわかっておりますが、なかなか難しい部分もあって、以前、社会教育委員から、これを出して一体どうなるのだと責められたことがありました。そういった気持ちもよくわかるのですが、答申を出した後は、私たちにはどうにもできないのです。ただ、今回の答申に関しては、できれば、今後どこかのタイミングで、教育長などに現状をお伺いできればと思いますし、社会教育委員には学校の代表もいらっしゃいますので、学校現場での状況をお伺いできる機会もあると思います。ぜひ各学校に、色々な形で挑戦していただければありがたいと思っています。

○山本委員

次の会議が控えておりまして、ここで退席させていただきます。本当にありがとうございました。

(山本委員退室)

○吉原議長

お疲れ様でした。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。
続いて、山下委員お願ひいたします。

○山下委員

私は子育て世代の代表ということで、茅ヶ崎市PTA連絡協議会から推薦をいただいて、この会議に参加させていただきました。

この会議に私が参加して何ができるのだろうと、疑問に思っておりましたが、委員の皆様の御意見を聞き、事務局の仕事内容を知り、また、実際私が利用させていただいた子ども会や、公民館、地域の方々との関係からも、色々なことを知ることができました。

現在、市PTA連絡協議会の加入校は、茅ヶ崎市小中学校32校中、6校と少なくなっておりますが、市PTA連絡協議会へ加入していない学校も、違うかたちで参加できるように「つながるプロジェクト」という新たな取組で、PTA活動をされている他の学校と連携をとるといふ取組を行っています。今年度も、新しい役員の方に御加入いただくことができいております。今後も、新しい形で、まずできることを探して、広めていかれればと思っております。

また、今日の吉原議長のお話を聞いて、私も色々なところにまず出向いて行こうと思いました。私は西浜小学区ですので南湖公民館などが近いのですが、色々な館の活動について、出向いて知ること、伝えていくこともできますし、そういう活動をこれからも続けていきたいと思っております。本当に勉強させていただきました。ありがとうございます。

○吉原議長

お疲れ様でございました。これからも頑張ってください。よろしく願いいたします。続いて、城田委員お願いいたします。

○城田委員

私は青少年育成協議会の代表としてこの会議に参加しておりました。他に、梅田小学校及び中学校の学校運営協議会の委員、また茅ヶ崎地区コミュニティセンター管理運営委員会において、今年度より会長を務めております。

そういう立場も踏まえすと、この2年間の社会教育委員の会議というのは、非常に勉強になりました。今後、特に学校運営協議会においては、この答申を実践していく立場であることを強く認識しております。今日も色々と公民館の事業計画についてお聞きしましたが、やはりコミュニティーセンターとの連携というのも必要になってくる部分もあると思いますので、そういったところも活かしていきながら、今後活動していければと思っております。2年間どうもありがとうございました。

○吉原議長

お疲れ様でした。今後も色々とやってください。よろしく願いいたします。次に、深井委員お願いいたします。

○深井委員

はい。青少年指導員連絡協議会から参加しております深井です。2年間ありがとうございます。

いました。

この2年間は、答申作成において、今までの答申の様式を変えるような提案をしてしましまして、事務局に対して、とても面倒なことをさせてしまったなどというのが、この2年間の正直な感想です。私の意見どおりではありませんが、似たような形で作成いただきまして、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。

私は、室田小学校区なので、以前から松林公民館で、森井教育推進部長が館長でいらっしゃったときから事業で手伝いをしたりしていたのですが、今回、議長もおっしゃっていたように、松林公民館以外の施設にも行ってみたいと思いました。青少年会館はいつも利用しているので行ったことがあるのですが、香川公民館など、近場の公民館にも足を延ばして、他のことも勉強してみたいと思いました。どうもありがとうございました。

○吉原議長

ありがとうございました。答申の構成に関しては、今まで同じスタイルでずっと作成していましたので、深井委員から御意見いただきまして目からうろこでした。とてもありがたい建設的な意見をいただいたおかげで、とても素晴らしく変わったと思っております。ありがとうございました。

続いて、青木委員お願いいたします。

○青木委員

1年間ありがとうございました。私は公民館運営審議会委員連絡協議会から推薦されてまいりました。皆様の意見が活発で、私もとても勉強になりました。自分の子育てはもう終わってしまっているのですが、もう少し早く知っていればと残念に思います。

今は、子どもたちが小さい頃からスマートフォンを使っているのを見ていて、少し心配はあったのですが、ネットパトロールなどに取り組んでくださっているとお聞きできてよかったです。ありがとうございました。

○吉原議長

ありがとうございました。

下村委員お願いいたします。

○下村委員

はい。茅ヶ崎支援学校の下村です。前任の徳永を含めて大変お世話になりました。

議長からの発言の中に「今まで見えなかった視点」という表現がありましたが、そのように言っただき、とても嬉しく思っています。

先ほどの話にもありましたが、鶴嶺公民館と「子どもも大人もみんな音遊び」といった事業を行うこともできました。本日公民館の事業説明がありましたが、今後も各公民館で、「誰もが」「みんな含めて」という視点を持っていただけると嬉しいです。

また、答申に関しまして、議長から「すぐ実現できなくとも、何かしらの参考に」とい

うお話がありましたが、前任の徳永が4月から横浜市の瀬谷支援学校に異動いたしまして、そこで地域学校協働活動の推進に関してミッションを与えられたとの報告がありました。県立の特別支援学校としては、今年度、そういった取組を進めるという動きも見え始めており、徳永がこちらの委員として行った取組も参考に情報提供などもさせていただいております。茅ヶ崎支援学校でも、今後、コミュニティ・スクールの取組などもありますので、地域学校協働活動というところも視野に入れられるとよいと考えております。

また、関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会での発表では、大変皆様に御協力いただきました。私自身も勉強になり、よい経験をさせていただき大変感謝しております。ありがとうございました。

○吉原議長

ありがとうございました。関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会では、下村委員が「ともに生きる」というスローガンがプリントされたTシャツを着て、本当に素晴らしい発表をしてくださいました。徳永委員の後を引き継がれて大変だったと思いますが、大学生が挙手をして質問をしてくださるほど、充実した発表になりました。とてもよかったですと思います。本当にお疲れ様でございました。ありがとうございました。

続いて、宮下副議長よろしくお願いたします。

○宮下副議長

宮下でございます。茅ヶ崎市小学校長会の代表として、こちらに参加させていただきました。前任の都教頭の後任として、私自身は本当に何もわからないまま飛び込ませていただいた中で、最初に年度始めの定例会に出席しまして、各施設の方々から色々な事業計画の説明を受け、そこでまずカルチャーショックを受けました。世の中でこういった活動が展開されているということ、端々には知っていたものの、細かく知ると本当に感心するばかりで、そこに敬服したことが私の社会教育委員としてのスタートになりました。

また、会議で説明を受けるたびに、それぞれの取組がブラッシュアップされていて、直近の様々な課題にも対応されていて、毎年どんどんと世の中に対しての貢献度が増しているのだという、努力という言葉は大変失礼なのですが、そういった皆様の働きが、表立って見えない中でなされているということに、本当に心を打たれております。

この会の存在ということも本当に大きなものなのだとことを実感しています。

答申作成には、私も2年間関わらせていただき、幸せだったと思っています。最初に実施した学校に対して行ったアンケートは、回答する学校側にとって、ちょうど時期が悪く、委員の皆様にはその回答内容が必ずしもポジティブではない印象を与えてしまったかもしれませんが、決してそういうわけではなく、学校事情として非常に難しい状況だということはお伝えをさせていただきます。それでも、やはり非常に大事なテーマでしたし、これが実現していけば、地域にももちろん還元できると思いますが、学校も非常に助かって、教育活動がとても充実するものでしたので、何とか実現に向けて力が添えられたらという思いで取り組ませていただきました。この4月早々に、青柳教育長発出の文書の中に「地域学

校協働活動」という言葉を見ることができて、やはりそういったものを目にすると、力が入ってきているのだなというふうに思いつつ、やはり先ほどからあるように、本当にこれからののだということを私も思っています。やはり、まだまだ学校現場でも、地域学校協働活動とは何たるか、まだまだ勉強が足りないと思います。やはり、そこの啓発活動といったところから、取り組んでいく必要があると思っています。私自身も少しここで勉強させていただいたところがあるので、現場に戻って様々な形でお伝えしていきたいと思っていますし、推進の一助になればと思っています。

2年あまりでしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○吉原議長

お疲れ様でございました。今、宮下副議長がおっしゃいましたが、当初、アンケートの回答数が少なかったのですが、宮下委員が教頭会の中で再度アンケートの依頼をしてくださったおかげで、アンケート回答数を増やすことができ、結果、よりよい参考資料を作ることができました。本当にありがとうございました。とても快く引き受けてくださいましたが、その裏には教職員が大変だという思いも抱えつつ、やはり子どもたちのことを思っただけで、子どもたちのために何かをしなくてはという思いで、アンケートをとってくださったのだと思いました。本当にありがとうございました。

本当に皆様には感謝のみです。拙い議長でございましたが、本当にありがとうございました。

委員の皆様、他に何かございますか。

(特に声なし)

○吉原議長

では、本日の議題につきましては全て終了いたしました。これを持ちまして、令和8年度第1回社会教育委員の会議定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

○委員一同

ありがとうございました。

以上